

泉州国際市民マラソン 第5回大会 1998年(平成10年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 5th CONVENTIONS



2月15日
天 候: 曇り
気 温: 10℃
参加者数: 2,975人
完走者数: 2,488人
沿道人数: 54万人

第5回大会を迎えて、読売新聞をはじめ、報道関係のメディアが大会の様態を広く報道したことにより、泉州に春を告げる恒例の国際市民マラソン大会となった。ランナーズなどの専門誌にも掲載され、後日テレビ放映もなされたが、これは泉州・千亀利マラソン当時から継承されてきたことである。

このコースでは2回目であったが、フィニッシュ地点までの200mが一般立ち入りが制限され、選手に最後の声援が送れない難点があった。エイドステーションには、水、スポーツドリンク、バナナなどが置かれ、オレンジ、チョコレートや飴などを手渡してくれる《私設エイド》もみられた。制限時間内にフィニッシュすると、スポーツタオルと完走Tシャツが渡され、熱々の豚汁が振る舞われたが「冷えきった身体には最高」と評判がよかった。

レースは序盤から積極的に先頭をキープした吉田賢史(積水化学)が、2位岩本典宏に4分の差をつけ独走、女子は2位の第1回優勝の黒崎しのぶを10分以上離れた招待選手のシモーネ・スタイク(ルーマニア)がそれぞれ初優勝した。93年世界陸上選手権マラソン代表の早乙女等(RPM)も3位と健闘し、2年振りの復活走を見せた。'93年びわこ毎日優勝(2時間11分01秒)のマイク・

オレイリーは、18位に終わった。また、関西のタレント間寛平やそのまんま東らも、54万人の声援と4400人のボランティアの励ましを受け、潮風の泉州路を駆け抜けた。



自衛隊音楽隊が選手を応援



女子1位から10位が勢揃いした表彰式



男子1位から10位が勢揃いした表彰式



浜寺公園の10キロ付近を
力走する選手



1998年(平成10年)2月16日付朝刊



ゴールライン



優勝
第5回大会

男子
積水化学

吉田賢史

女子
ルーマニア

シモーネ・
スタイク

